

## 富田林市文化財調査報告57

平成27年度

# 富田林市内遺跡群発掘調査報告書

二〇一六年三月

2016. 3

富田林市教育委員会

## は　じ　め　に

大阪府の東南部に位置する富田林市は、自然と歴史に恵まれたまちです。

市の南部は、雄大な金剛・葛城連峰を背景に緑豊かな丘陵と美しい田園風景が広がり、自然景観にあふれています。

市の北東平坦部は、南北に流れる石川をはさんで平野が広がり、古くからまちが開けたところで、特に大阪府内で唯一「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されている「富田林寺内町」には、歴史的に貴重な町並みが残されています。

また、西部丘陵地域は、計画的に開発が進められたニュータウンとなっており、長い歴史に裏打ちされた町並みと新しい住環境が共存する郊外都市となっています。

市の成り立ちをたどれば、先史時代より人々がこの地において日々の暮らしを営んできた様子が、市内遺跡の発掘調査でわかっています。

この報告書はその一端となる、平成27年度に実施した緊急発掘調査についてまとめたものとなります。本市の歴史を知る上で、また貴重な記録を得ることができました。

最後になりましたが、緊急発掘調査および本書の刊行におきまして、ご理解とご協力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

平成28年3月

富田林市教育委員会  
教育長 芝本 哲也

## 例 言

1. 本書は、平成 27 年度国庫補助事業「市内遺跡緊急発掘調査事業」の報告書である。
2. 本事業は、富田林市教育委員会文化財課が、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日にかけて実施した。
3. 平成 27 年の現地調査および整理作業は、同課職員 中辻 直・角南辰馬・林 正樹、同課非常勤職員 栗田 薫・渡邊晴香・水久保祥子（現・茨木市教育委員会）が担当し、同課非常勤職員 桑本彰子がこれを補佐した。
4. 本書には整理作業等の都合から、平成 27 年 12 月 31 日までに現地調査が終了したものを掲載した。
5. 執筆は各調査担当者が行い、編集を渡邊が行った。
6. 平成 27 年の現地調査及び整理作業には、以下の者の参加を得た。（敬省略）  
板坂信治、伊藤成海、大澤 嶺、田中香里、土谷武嗣、土山賀代、土山寧々、西村雅美、山口陽子

## 凡 例

1. 本書で使用する標高は、東京湾標準潮位（T. P.）で表示している。
2. 現地調査における土色の色調は『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 1970）を使用した。
3. 引用・参考文献は巻末に示した。
4. 遺構番号については、現地調査で通し番号を付与した（F 1、F 2、F 3...）。喜志遺跡および中野北遺跡の調査では、整理作業で遺構の性格別に番号を付け直したが、平面図の中で当初の番号も併記している。

## 目 次

第1章 平成27年の調査	
第1節 平成27年度の調査状況	1
第2節 甲田南遺跡（KD2014-1）の調査	4
第3節 宮神社裏山古墳群の分布調査	6
第2章 栗ヶ池遺跡（AG2014-1）の調査	
第1節 調査の経緯と経過	7
第2節 調査の成果	8
第3節 まとめ	9
第3章 喜志遺跡（KS2015-1）の調査	
第1節 調査の経緯と経過	10
第2節 調査の方法と成果	11
第3節 まとめ	12
第4章 中野北遺跡（NNN2015-1）の調査	
第1節 調査の経緯	13
第2節 調査の方法と経過	14
第3節 調査の成果	14
第4節 喜志城伝承地と既往調査の構造について	18
第5節 まとめ	18
参考引用文献	
抄録	

## 挿 図 目 次

図1 市内遺跡分布図（S=1/40,000）	3
図2 調査位置図（S=1/3,000）とトレンチ配置図（S=1/500）	5
図3 宮神社裏山古墳群 墳丘測量図（S=1/1,000）	6
図4 調査位置図（S=1/4,000）	7
図5 トレンチ配置図（S=1/200）	8
図6 トレンチ平面図・断面図（S=1/40）	9
図7 調査位置図（S=1/2,000）とトレンチ配置図（S=1/200）	10
図8 トレンチ平面図・北壁断面図（S=1/20）	11
図9 調査位置図（S=1/2,000）	13

図 10	II 区南壁断面図 (S = 1 / 50) . . . . .	14
図 11	全体平面図 (S = 1 / 100) . . . . .	15
図 12	II 区溝 1 断ち割り南壁断面図 (S = 1 / 50) . . . . .	16
図 13	出土遺物実測図 (S = 1 / 4) . . . . .	17

## 表 目 次

表 1	発掘届（通知）受理件数 . . . . .	1
表 2	発掘調査一覧 . . . . .	2
表 3	試掘調査一覧 . . . . .	2
表 4	その他調査一覧 . . . . .	2

## 写 真 目 次

写真 1	甲田南遺跡 (KD2014-1) 調査状況 (南から) . . . . .	4
写真 2	宮神社裏山 1 号墳 北西の堀状の窪み (南から、写真右側が後円部) . . . . .	6

## 図 版 目 次

図版 1	栗ヶ池遺跡 (AG2014-1) 調査区近景 (北東から)、調査区近景 (南から)
図版 2	栗ヶ池遺跡 (AG2014-1) 調査区西壁土層断面 (南東から)、調査区南壁土層断面 (北西から)
図版 3	喜志遺跡 (KS2015-1) 1 面目完掘状況 (南西から)、2 面目完掘状況 (南西から)
図版 4	中野北遺跡 (NNN2015-1) 調査区近景 (南から)、調査区近景 (北から)
図版 5	中野北遺跡 (NNN2015-1) II 区 溝 1 土層断面 (北東から)、II 区 溝 1 西側肩部状況 (北東から)
図版 6	中野北遺跡 (NNN2015-1) II 区 溝 1 土層断面 (北西から)、II 区 溝 1 東側肩部状況 (北西から)
図版 7	中野北遺跡 (NNN2015-1) II 区 西壁土層断面 (南東から)、I 区近景 (南東から)
図版 8	中野北遺跡 (NNN2015-1) I 区 西壁土層断面 (北東から)、I 区 土坑 2 土層断面 (西から)

# 第1章 平成27年の調査

## 第1節 平成27年の調査状況

平成27年1月から12月において、文化財保護法第93条・94条に基づく発掘届出・発掘通知の提出状況は、表1のとおりであった。件数は前年度に比べると、19件増加している。これは、以前より行われてきたものも含めた、小規模な宅地造成に伴う住宅の発掘届出が増加していることに起因する。ただし、発掘調査や立会調査、試掘調査などの割合については前年度とあまり変わらない。

その中で、埋蔵文化財包蔵地外での試掘調査において、新規発見となった遺跡と範囲拡大した遺跡がある。林口遺跡は若松町五丁目での試掘調査で新規発見となり、工事は遺構面を保護した変更設計により慎重施工となった。範囲拡大したのは、中野町二丁目の試掘調査によって遺構と遺物を発見された中野北遺跡である。この中野北遺跡については現在協議中である。

さて、これらのうち国庫補助事業として調査を実施したのは、甲田南遺跡（第1章第2節）、栗ヶ池遺跡（第2章）、喜志遺跡（第3章）、中野北遺跡（第4章）の計4件と宮神社裏山古墳群の分布調査である。事前確認調査の甲田南遺跡と、宮神社裏山古墳群の分布調査については本章で報告する。

表1 発掘届（通知）受理件数

	発掘届出(93条)					発掘通知(94条)					合計
	事前	立会	慎重	遺憾	小計	事前	立会	慎重	遺憾	小計	
道路	0	0	0	0	0	0	0	8	1	9	9
宅地造成	4	1	0	1	6	0	0	0	0	0	6
個人住宅	4	17	17	0	38	0	0	0	0	0	38
分譲住宅	3	6	11	0	20	0	0	0	0	0	20
共同住宅	3	2	1	0	6	0	0	0	0	0	6
兼用住宅	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1
店舗	2	1	0	0	3	0	0	0	0	0	3
その他建物	5	4	1	1	11	0	0	0	0	0	11
公園造成	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
ガス	0	0	37	0	37	0	0	0	0	0	37
電気	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	2
水道	0	0	0	0	0	0	1	4	0	5	5
下水道	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
電話通信	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1
その他開発	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
小計	22	32	70	2	126	0	1	15	1	17	143

表2 発掘調査一覧

番号	調査日	所在地	遺跡名	調査原因	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査結果	担当者	調査番号
1	1月23日	桜ヶ丘町	新家遺跡	宅地造成	30	遺構・遺物なし	水久保	
2	1月22日	若松町西二丁目	中野遺跡	その他開発	1.8	遺構・遺物あり(設計変更で遺構面保護)	角南	
3	1月27日・4月1日	甲田三丁目	甲田遺跡、甲田南遺跡	店舗	19.5	遺構・遺物あり(設計変更で遺構面保護)	角南	KD2014-1・KD2015-1
4	2月19日	甲田三丁目	甲田南遺跡	その他建物	14.2	遺物あり(設計変更により遺構面譲)	角南	KDS2014-1
5	3月5日	喜志町一丁目	喜志南遺跡	宅地造成	11	遺構・遺物あり(4の事前調査)	角南	KSS2014-1
6	3月6日～13日	桜井町二丁目	栗ヶ池遺跡	個人住宅	15.6	遺構・遺物あり	角南	AG2014-1
7	3月26日～5月9日	喜志町一丁目	喜志南遺跡	宅地造成	582	遺構・遺物あり(6の本調査)	角南	KSS2014-1
8	4月23日	喜志町一丁目	喜志南遺跡	宅地造成	3.8	遺構・遺物なし	角南	
9	5月7日	喜志町四丁目	喜志遺跡	個人住宅	1.3	遺物あり(11の事前調査)	角南	KS2015-1
10	5月13日	中野町二丁目	中野遺跡	共同住宅	9.3	遺構・遺物あり(14の事前調査)	林	NN2015-1
11	6月1・2日	喜志町四丁目	喜志遺跡	個人住宅	2.75	遺構・遺物あり(9の本調査)	角南・林	KS2015-1
12	6月12日	甲田一丁目	甲田遺跡	その他建物		遺構・遺物なし	林	
13	6月16日	中野町二丁目	中野北遺跡	共同住宅	2.9	遺構・遺物なし	林	NN2015-1
14	6月30日～7月24日	中野町二丁目	中野遺跡	共同住宅	36	遺構・遺物あり(10の本調査)	林	
15	7月6日	若松町四丁目	中野遺跡	共同住宅	6	遺構・遺物なし	角南	
16	8月4日	本町	堀ノ内遺跡	店舗	4	遺構・遺物なし	角南	
17	8月7日	中野町二丁目	中野北遺跡	個人住宅	0.3	遺構・遺物あり(19の事前調査)	角南	NNN2015-1
18	8月17～19日	中野町二丁目	中野遺跡	分譲住宅	66	遺構・遺物あり	角南・渡邊	
19	8月2～18日	中野町二丁目	中野北遺跡	個人住宅	203	遺構・遺物あり(17の本調査)	林	NNN2015-1
20	9月18日	別井二丁目	別井遺跡	個人住宅	2	遺構・遺物なし	角南	
21	10月19日	富田林町	富田林寺内町遺跡	分譲住宅	7.2	遺構・遺物なし	林、渡邊	
22	10月19日	富田林町	富田林寺内町遺跡	分譲住宅	2.1	遺構・遺物なし	林、渡邊	
23	10月27日	甲田一丁目	甲田遺跡	その他建物	1.2	遺構・遺物なし	林	
24	12月14日	錦織東一丁目	錦織遺跡	個人住宅	3.2	遺物あり(平成28年1月本調査)	角南	NK2015-1

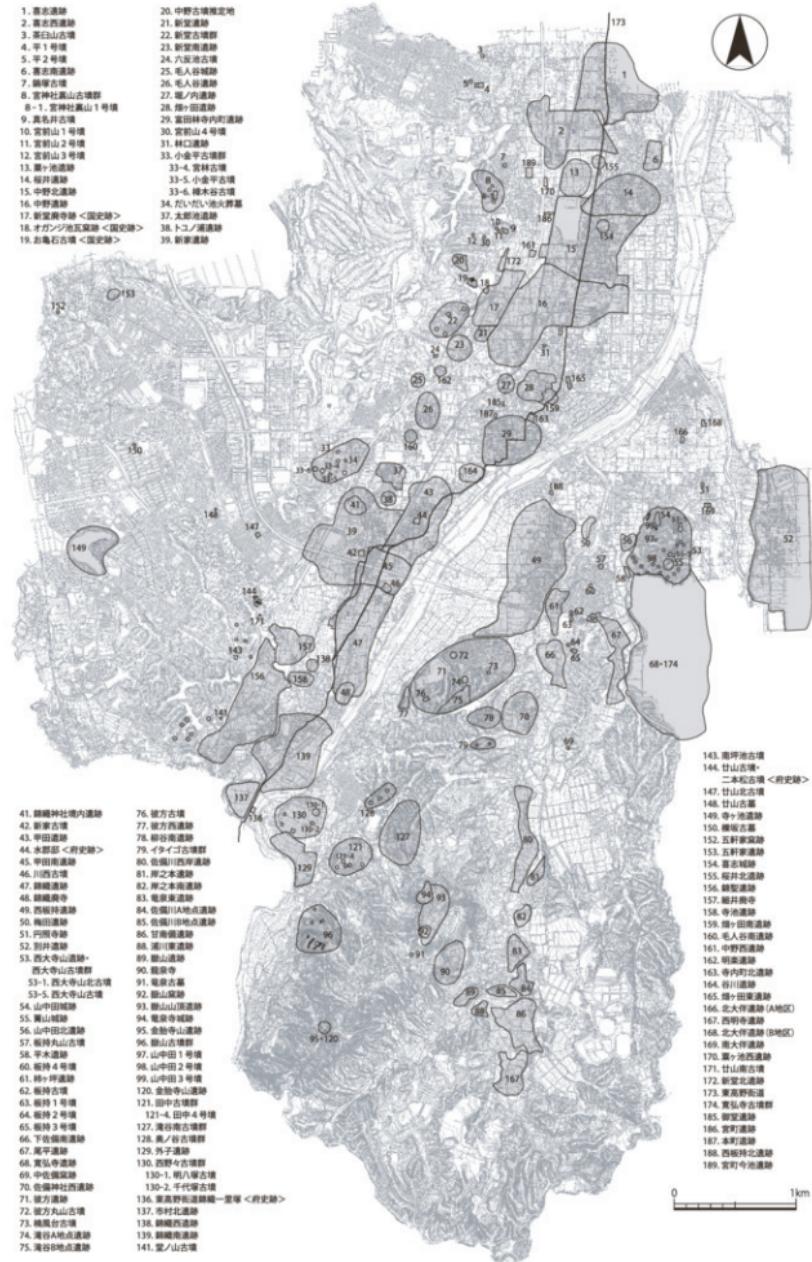
表3 試掘調査一覧

番号	調査日	所在地	調査原因	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査結果	担当者
1	5月19・25・27日	錦織東三丁目	共同住宅	工事立会	遺構・遺物なし(工事立会)	林
2	5月22日	大字甘南備	その他建物	工事立会	遺構・遺物なし	林
3	7月24日	若松町五丁目	宅地造成	8	遺構なし・遺物あり	角南
4	8月5日	大字毛人谷	店舗	3	遺構・遺物なし	林
5	9月29日	若松町五丁目	共同住宅	1.6	遺構・遺物あり(遺構面保護)	角南
6	10月1日	若松町西一丁目	店舗付共同住宅	5.9	遺構・遺物なし	林
7	10月5日	若松町五丁目	宅地造成	3	遺構・遺物なし	林
8	10月22日	中野町東一丁目	その他建物	2.6	遺構なし・遺物あり	角南
9	11月24日	山中田町二丁目	宅地造成	3.4	遺構なし・遺物あり	林
10	11月26日	大字喜志	その他建物	3	遺構・遺物なし	林
11	11月6日	若松町西一丁目	共同住宅	16.9	遺構・遺物なし	林
12	12月16～18日	中野町西二丁目	店舗	117	遺構・遺物あり(協議中)	林
13	1月13日	山中田町二丁目	宅地造成	1.5	遺構・遺物なし	角南

表4 その他の調査一覧

番号	調査日	所在地	遺跡名	調査内容	担当者
1	3月24日	富田林市宮町三丁目	宮神社裏山古墳群	現状確認のための踏査を行った。	角南

1. 墓赤道跡
2. 寺白山古墳
3. 斎白山古墳
4. 平1号墳
5. 平2号墳
6. 神代遺跡
7. 鶴見古墳
8. 宮外社高山古墳群
- 8-1. 宮外社高山1号墳
9. 犬名井古墳
10. 寧當山1号墳
11. 寧當山2号墳
12. 寧當山3号墳
13. 寧當山4号墳
14. 桜井遺跡
15. 中野北遺跡
16. 中野遺跡
17. 新宮南古墳 <歴史跡>
18. オガシノ池瓦窯跡 <歴史跡>
19. 小島石古墳 <歴史跡>
20. 中野古墳複合地
21. 新宮遺跡
22. 新宮古墳群
23. 新宮南古墳
24. 新宮北古墳
25. 毛人冢遺跡
26. 毛人冢遺跡
27. 堀之内遺跡
28. 堤内遺跡
29. 富士林寺町古墳
30. 宮山4号墳
31. 村山遺跡
32. 小金谷古墳群
- 33-5. 小金谷古墳
34. だいだい火葬墓
35. 太田遺跡
36. トノノ瀬遺跡
37. 新宮遺跡



## 第2節 甲田南遺跡（KDS2014-1）の調査

甲田三丁目地内の甲田南遺跡内において、高齢者住宅の建設が計画され、2015年2月に申請者より都市計画法に基づく事前協議書が提出された。開発予定地周辺では、国道309号の敷設に伴う調査などで多数の遺構、遺物を確認しており、近年では2009年に国道旧170号の歩道設置に伴う大阪府教育委員会の調査で、弥生時代の土器棺や古代の堅穴建物がみつかっている（大阪府教育委員会2011）。これらの状況から、開発予定地に遺構が存在することは確実な状況であったため、保存協議に向けた確認調査を実施することにした。調査は2015年2月に一部を補助事業対象として実施した。

なお、北側の隣接地においても、同時期に店舗の建設が計画され、2015年1月（KD2014-1）および4月（KD2015-1）の2回に分けて事前調査を実施している。補助事業対象外の調査であるが、今回の調査成果を理解するうえでも必要であるため、それらも含めた配置図（図2）を掲載しておく（こちらの開発範囲は甲田遺跡と甲田南遺跡の両方にまたがっているが、3分の2以上を占める甲田遺跡を調査遺跡名とした）。

調査は、建築予定範囲に南北方向のトレント（長さ約23.5m、幅約0.5m）を設定して行った（写真1）。トレント北端に入れたサブトレントでの観察結果から、層序は耕作土層、旧耕作土層、床土層と続き、現況面から深さ約33cmで黒褐色粘質土層（10YR3/2）となる。この層には土師器、須恵器が含まれ、層厚は18cmであった。その直下には、5cm前後の礫を含む灰黄褐色粘質土層（10YR4/2）があり、遺物は確認できなかった。層厚については、20cm以上であることを確認するととどまった。

黒褐色粘質土層および灰黄褐色粘質土層は、前述の大坂府教育委員会の調査において「黒色帯」と呼称された土層にあたると考えられる。弥生時代から古墳時代にかけて形成された層とされ、上面は古墳時代後期以降から中世にかけての遺構面となっているが、土色と遺構埋土が類似し、遺構検出が難しいようである。この「黒色帯」は、北側の調査地（KD2014-1およびKD2015-1）でも確認しており、その上面レベルは東側の石川に向かって下降することが分かっている。これらの所見もふまえたうえで、掘削はサブトレントを除いて黒褐色粘質土の上面までにとどめ、その標高を記録する作業を行った。

この調査成果をもとに、申請者と再度協議を行ったところ、杭工法による遺構面保護に配慮した設計に変更になったため、記録保存による本調査は回避された。なお、北側の開発についても同様に設計変更となり、一時は広範囲にわたって損壊の恐れがあった甲田遺跡、甲田南遺跡を、申請者のご理解とご協力により、軽微な損壊にとどめることができた。



写真1 甲田南遺跡（KDS2014-1）調査状況（南から）

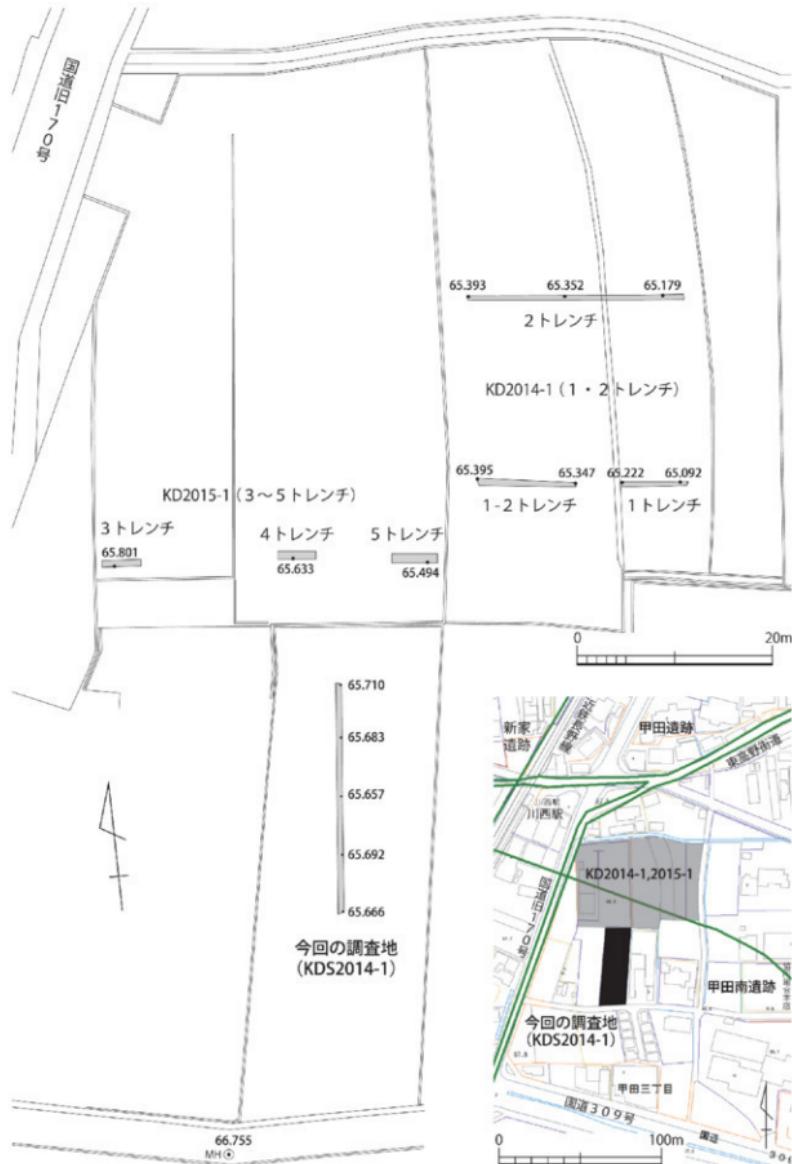


図2 調査位置図 ( $S = 1/3,000$ ) とトレンチ配置図 ( $S = 1/500$ )

### 第3節 宮神社裏山古墳群の分布調査

宮町三丁目に位置する宮神社裏山古墳群において、2015年3月に踏査による現状確認を行った。美具久留御魂神社の境内の最高点には、古墳時代前期の築造とみられる1基の前方後円墳（1号墳）があり、周辺には古墳時代後期とみられる3基の円墳（2～4号墳）がある（図3）。

今回の踏査では、1号墳で新たな所見が得られた。後円部北西および北東、前方部南西で堀状の窪みを確認し、とりわけ北西部について明瞭であった（写真2）。また、後円部北側においては、呼称が適当ではないかもしれないが、「張出部」のような幅の広い平坦面が存在する。墳丘の付属施設となる可能性がある。等高線が一部を除いて1m間隔であるため、詳細な測量図の作成が今後の課題である。なお、山道によって削られた部分で土師器および埴輪の細片が少量散布しているのを確認したが、詳細な時期が分かるものはなかった。



写真2 宮神社裏山1号墳 北西の堀状の窪み

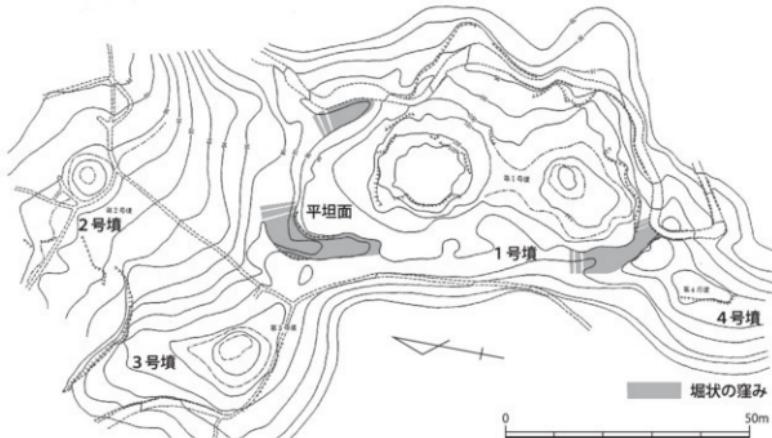


図3 宮神社裏山古墳群 墳丘測量図 ( $S = 1/1,000$ )

## 第2章 粟ヶ池遺跡(AG2014-1)の調査

### 第1節 調査の経緯と経過

桜井町二丁目に所在する粟ヶ池遺跡は、地形的には石川の西岸に形成された中位段丘上に位置する。この中位段丘には、北側から入り込む深い谷地形があり、遺跡はその中に収まるようにして広がっている。遺跡の南側には、谷地形を利用して築造された粟ヶ池が接している。

この地に遺跡が存在することが広く周知されたのは、1978年刊行の『富田林市の埋蔵文化財一埋蔵文化財基本分布図一』(富田林市教育委員会 1978)においてであり、「粟ヶ池遺物散布地」として南北150m、東西80mの範囲にわたって、サヌカイトおよび須恵器が散布することが記されている。その後も開発行為が行われることがほとんどなく、田畠の景観が維持されてきたが、現在は当時の認識よりも広い範囲が粟ヶ池遺跡として登録されている(図4)。

遺跡に調査のメスが入ったのは2006年度のことである。粟ヶ池に近い遺跡南端付近で、保育園建設に先立つ事前調柶を実施している(2006年度調柶地)。当時の現況面から約1.5mまで掘削を行ったが、砂質土を主体とする軟弱な堆積が続くのみで、地山は確認できていない。遺構、遺物も認められず、調柶担当者はこの堆積を「旧河道のもの」と判断している。

初めて遺構を確認したのは、遺跡内で2回目となった2010年度の集会所建設に先立つ事前調柶である。現耕作土の直下という非常に浅いレベルに地山面があり、遺構を確認したことから、引き続き浄化槽部分で本調柶を実施した(AG2010-1)。小規模調柶ながら多数のピットを確認したが、少量の遺物から6世紀代の遺構であることを推測するにとどまった。

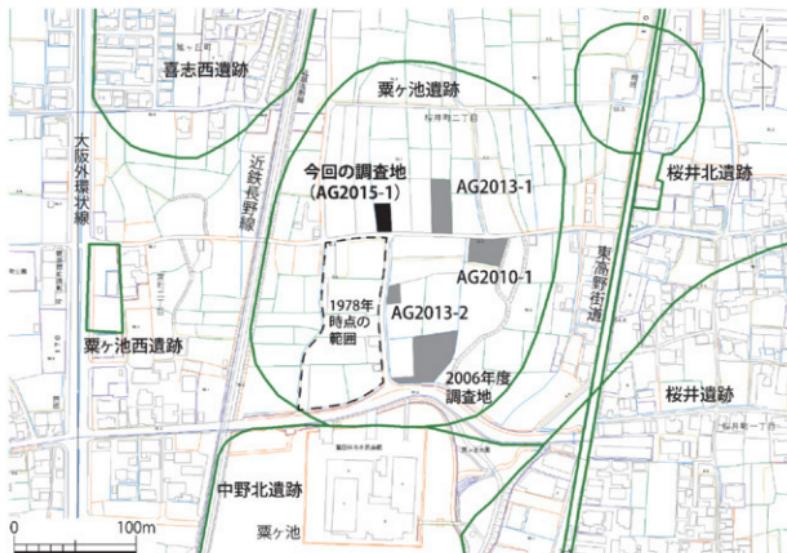


図4 調柶位置図 (S = 1/4,000)

2013年度は児童遊園の新設工事と、個人住宅の新築工事に先立つ2件の事前調査を実施した。前者(AG2013-1)は2010年度の調査地に近く、多数の遺構、遺物を確認したため、引き続き擁壁設置部分で本調査を実施した。調査区北端付近では複数のピットがみられたが、調査区の広範囲にわたって東西方向にのびる浅い落込みを確認した。古墳時代後期から奈良時代にかけての遺物が出土し、落ち込み内からは古墳時代後期の円筒埴輪も出土している。一方の後者(AG2013-2)については、遺構は確認できず、遺物も少量であった。

前置きが長くなつたが、今回の調査は個人住宅の新築工事に伴つて実施したものである。文化財保護法に基づく発掘届出書が2014年12月に提出されたため、ただちに申請者と協議を行つた。調査地の現況は畑であったが、前面の道路と高さを合わせるために、すでに盛土をしたうえで土地利用がなされており、現況面は周囲の耕作土面よりも高い。そのため、計画されていた建物基礎のほとんどは遺構面に影響のない深度であったが、浄化槽とその周辺の深基礎が遺構面に影響するがことが予想され、事前調査と本調査を兼ねた発掘調査を実施することになった(図5)。現地調査は2015年3月6日から同月13日にかけて実施し、実働日数は4日であった。調査面積は約15.6m<sup>2</sup>である。

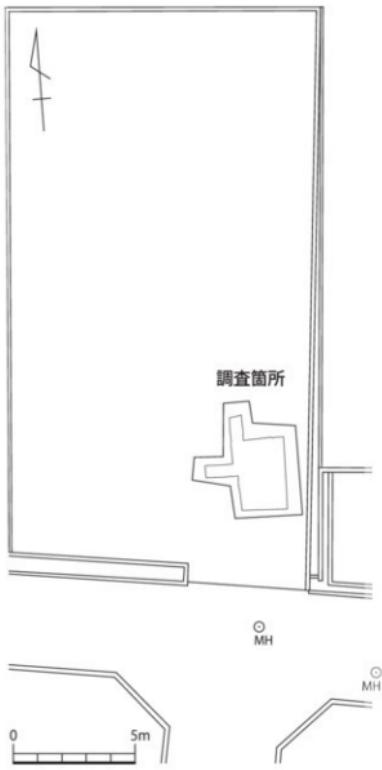


図5 トレンチ配置図 (S = 1/200)

## 第2節 調査の成果

基本層序は、真砂土による盛土層、2層の旧耕作土層(上層の上面は周囲の現耕作土面のレベルに相当)、床土層、旧耕作土層、明黄褐色粘質土の地山である。地山面で遺構検出を行い、12基の遺構を確認した(図6)。なお、遺構番号は調査時に付与したものをそのまま記す。

方形の浅い落ち込み状の遺構であるF1は、埋土が3層に分かれる。上、中層は暗灰黄色粘質土であるが、下層は地山が汚れたようなぶい黄色粘質土となっている。東西方向にのびる溝状の遺構であるF2が、これに類似した堆積状況を示しており(ただし上、中層は滞水の影響か青灰色に変色している)、同時期の遺構かもしれない。F1からは土師器の細片しか確認できなかつたが、F2からは土師器の細片のほか、6世紀代とみられる須恵器の坏身片が出土した。

F2埋没後に掘り込まれたF11は、土色からF12と区別して検出したが、もとは南北方向にのびる一体の溝であった可能性がある。F11からも、土師器の細片と6世紀代とみられる須恵器の坏身片が出土している。

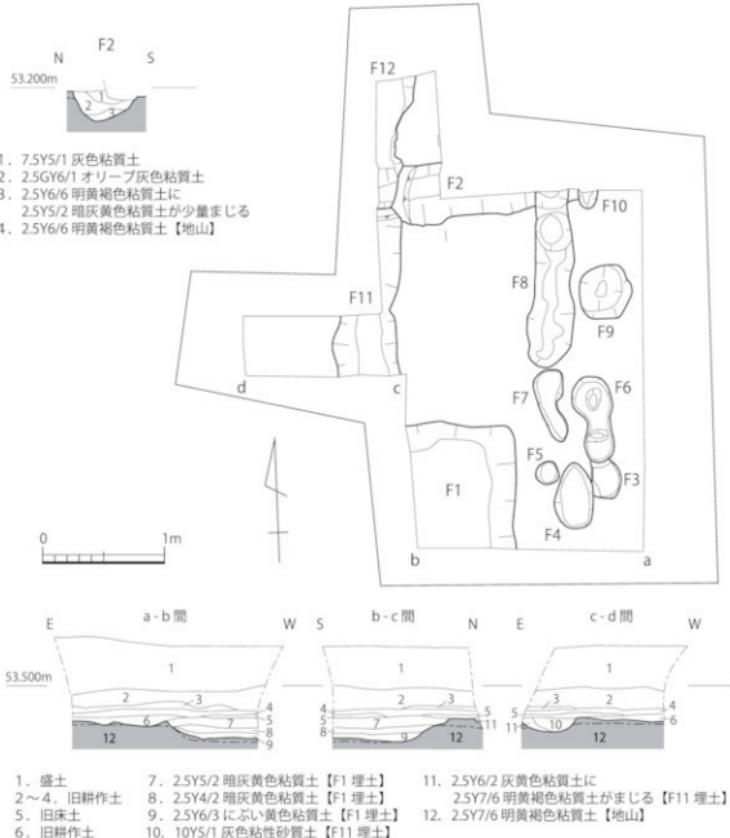


図6 トレンチ平面・断面図 (S = 1/40)

このほかの遺構については、検出面からの深さが5cm前後と浅く、遺構と認定してよいのか疑わしいものも少なくない。遺物はF5、F8から出土しており、ともに土師器の細片である。

### 第3節 まとめ

今回も小規模調査のため、遺構の性格や所属時期など不明な点も多いが、数少ない栗ヶ池遺跡の調査事例を一つ加えることができた。これまでの調査成果とあわせて概観すると、遺跡範囲の中央のやや北側には東西方向の深い落込みが広がり、その北側と南側にピット群が存在する。落ち込みは今回の調査地までは統かず、明確なピットも確認できなかったが、西側への遺構の広がりが明らかになった。AG2010-1地点より南側については、遺構は未確認である。しかし、1978年に認識された遺物散布範囲は、現在の遺跡範囲内の南西部にあたるために、今後も注意が必要である。

## 第3章 喜志遺跡 (KS2015-1) の調査

喜志遺跡は、石川中流域西岸に形成された河岸段丘上に立地する遺跡である。遺跡範囲は富田林市と羽曳野市にまたがっており、富田林市喜志町・木戸山町の一部、羽曳野市東阪田・壺井・広瀬・通法寺のそれぞれ一部に該当する。サヌカイト製品が多量に出土する遺跡として知られており、弥生時代中期における石器製作集団の集落跡として位置づけられている。

### 第1節 調査の経緯と経過

個人住宅の建て替えに伴う発掘調査である。調査地は、喜志小学校の北150mにある住宅地の一角に位置する。『富田林市史』(富田林市史編纂委員会 1985)によると、同地付近で灌漑用水路の改良工事を行った際、溝状遺構・堅穴住居址と推定される遺構とともに、多量のサヌカイト剥片や弥生土器が出土したことが記されている。また、周辺で過去に実施された調査においても、包含層や遺構が確認されている。

本調査に先立ち、平成27年5月7日に事前調査を実施した。サヌカイトや弥生土器片を含む層を確認し、遺構が良好に残存している可能性が高いと判断したことから、申請者と協議を行った。その結果、浄化槽予定地において平成27年6月1日から2日間本調査を実施することになった。



図7 調査位置図 ( $S = 1/2,000$ ) とトレンチ配置図 ( $S = 1/200$ )

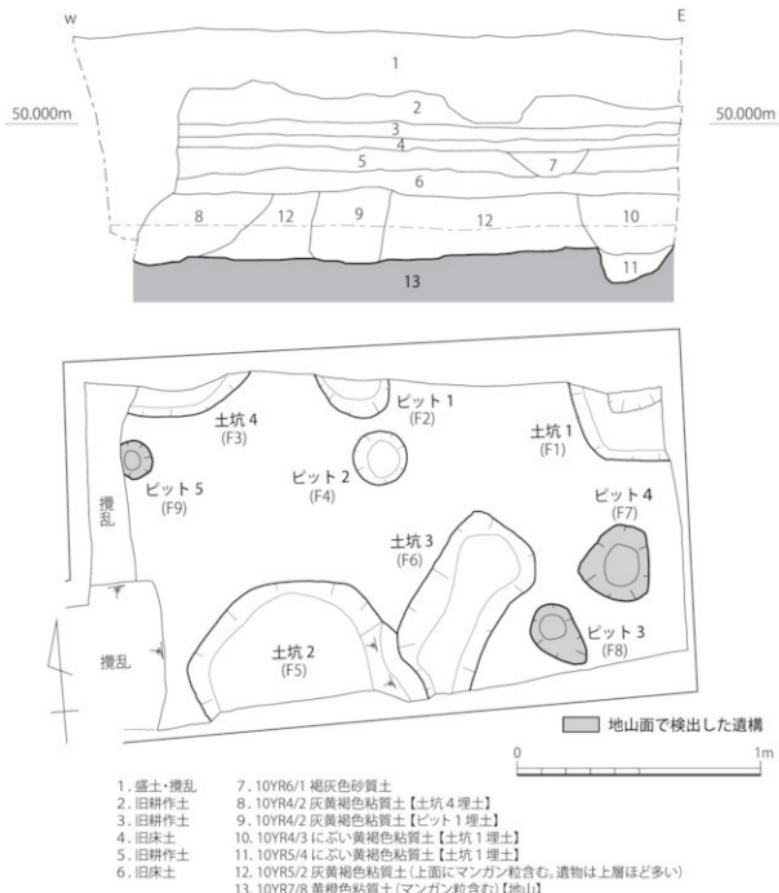


図8 トレンチ平面図・北壁断面図 (S = 1/20)

## 第2節 調査の方法と成果

浄化槽予定地に南北約1.2m、東西約2.4m（計2.75m<sup>2</sup>）のトレンチを設定した。旧耕作土下面まで重機による掘削を行い、その後、地山面まで人力による掘削を行った。

遺構は、12層上面と地山面で確認している。12層上面において遺構検出を試みたがはつきりせず、0.15m程掘り下げて遺構検出を行った。結果、土坑4基（土坑1～4）、ピット2基（ピット1・2）を確認し（1項目）、その後に地山面まで掘削したところ、ピット3基（ピット3～5）を検出した（2項目）。

遺物は、コンテナ1箱程である。弥生土器とサヌカイトが主であり、土坑2・3では土師器が少量混じる。トレンチ掘削中に弥生土器・サヌカイトのほか、少量の土師器・須恵器・黒色土器を確認した。廉状文、扇形文、櫛描文などが描かれた壺胴部片が見られることから、弥生時代中期に属するものが大勢を占めると思われる。サヌカイトは石礫・スクレイバーのほか、二次加工または微細剥離痕の見られる剥片が複数存在する。剥離面の風化が進んだ剥片が1点出土しているが、単体で旧石器と判断することはできない。

### 第3節 まとめ

小規模調査であり、今回の調査だけをもって遺跡の性格を語ることはできない。近隣で竪穴住居址が検出されていることから、弥生時代の集落域内である可能性が高い。喜志遺跡西部の様相については不明な点も多く、今回の成果の位置づけは周辺地域の調査が進展した段階で行いたい。

## 第4章 中野北遺跡 (NNN2015-1) の調査

中野北遺跡は、石川中流域西岸に形成された河岸段丘上に立地する遺跡である。遺跡範囲は富田林市中野町一～三丁目・栗ヶ池町の一部に該当する。その中でも段丘崖に面した遺跡東部域では、古代から中世にかけての遺構が多数発見されている（図9）。遺跡範囲内には喜志城跡、中野城伝承地など楠氏にまつわる伝承を持つ城跡が存在している。

### 第1節 調査の経緯

個人住宅の新築に伴う発掘調査である。平成27年8月4日に事前調査を行い、建築予定範囲内の2箇所を掘削した結果、旧耕作土直下で地山層と遺構を確認した。遺構面まで極めて浅いことから、申請者と協議を行い、住宅およびガレージ部分の全面を調査対象とすることになった。本調査は平成27年9月2日から同月18日まで実施した。

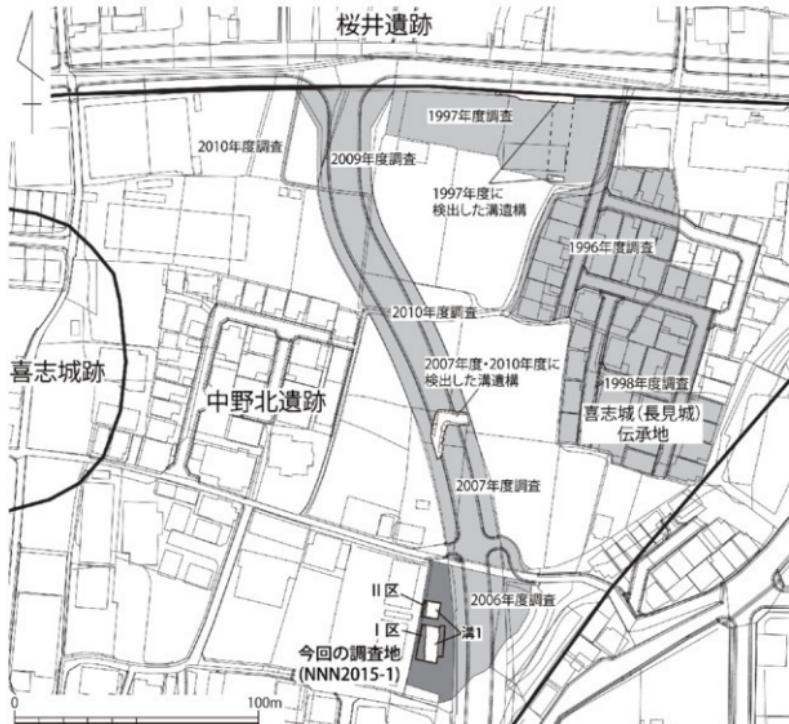


図9 調査位置図 (S = 1/2,000)

## 第2節 調査の方法と経過

調査にあたって、住宅部分（約 153 m<sup>2</sup>）を I 区、ガレージ部分（約 50 m<sup>2</sup>）を II 区として設定した（図 11）。重機運用の都合上、II 区西端から機械掘削に着手し、GL-0.3m で地山面を検出した。東側へ地山面が落ち込んでおり、東端で GL-0.6m まで下げた時点で壁面の観察を行った結果、遺構埋土を掘削しているとの判断に至ったため、掘削を中断した。I 区は同じく西端から機械掘削に着手し、GL-0.3m で地山面と南北に延びる遺構の肩を確認した。同レベルで東側でも南北に延びる遺構の肩を確認し、機械掘削を終えた。

I 区で検出した遺構（溝 1）の幅は、最も広い箇所で 6 m 近くにおよび、II 区の結果から GL-0.6m よりもかなり深くなることが予想された。この状況を受けて申請者と再度協議し、溝 1 の取り扱いについては、I 区は遺構検出にとどめ、II 区で幅約 0.5m の断ち割りによる断面確認を行うことにした。

基本層序は、現耕作土層・旧耕作土層・地山である（図 10）。遺構検出はすべて地山面で行った。

## 第3節 調査の成果

### （1）I 区（図 11・13）

特筆すべき遺構は、調査区の中央を南北方向に一線で貫く溝 1 である。後述する II 区での成果をあわせると、幅約 6 m、長さ 24.5 m 以上で、北側は II 区へ、南側は調査区外へと続いている。すでに述べたように、I 区では埋土の掘削を行っていない。遺構精査時に 16 世紀初頭の瓦質羽釜が出土している。

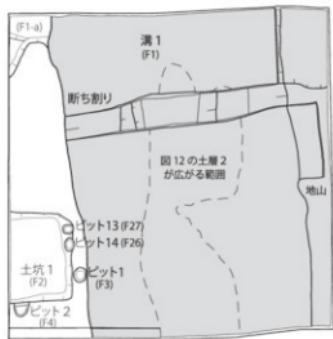
溝 1 の両脇からは、土坑 2 基（土坑 2・3）、溝 8 条（溝 3～10）、ピット 10 基（ピット 3～5・7～12・15）を検出している。

溝 3～8 は素掘り小溝であり、溝 8 を除き南北方向に伸びる。溝 8 は溝 7 の北端を切って、北東方向に伸びる。溝 3～8 の埋土は細砂混じりのにぶい黄褐色粘質土であり、溝 9・10 はにぶい黄褐色に黄褐色粘質土がブロックに混じる。溝 9 から瓦器碗の小片が出土しており、溝 1 に切られていることから溝 1 よりも古く、埋土が類似する溝 10 についても同じ時期の可能性がある。

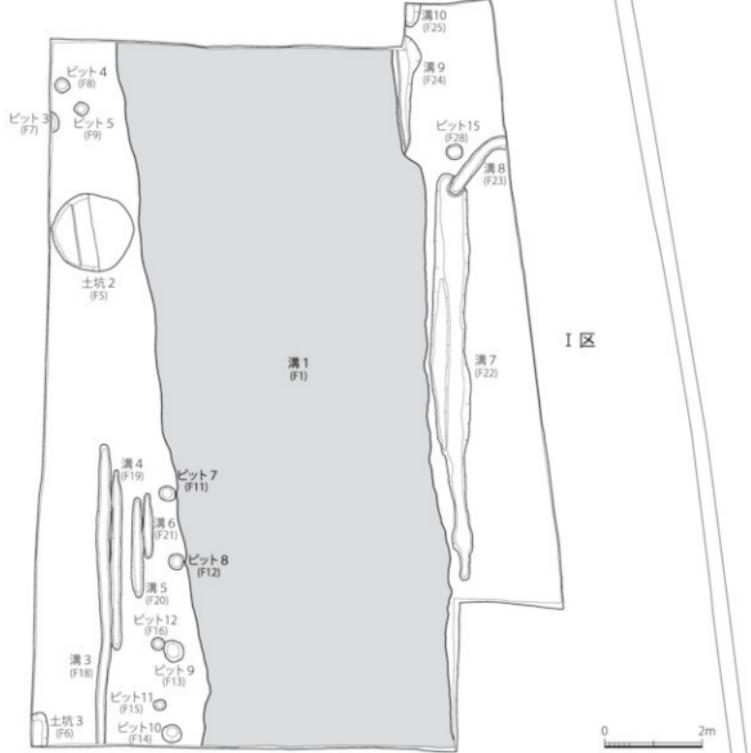
土坑 2 は直径 1.7 m の円形の土坑である。溝 1 と同様の理由で深さ 0.5 m までしか掘削していない。埋土は 3 層に分かれれる。1 層は溝 3～8 と同様のにぶい黄褐色粘質土であり、2 層は大きな礫混じりの灰黄褐色粘質土である。3 層は黒褐色粘質土で、土坑の側面から内に向かって斜めに堆積している。遺構側面が垂直であることなどから、井戸の可能性があるが、底まで掘削していないので断定はできない。遺物は主に 2 層から出土しており、瓦質火鉢（図 13-1）・瓦・土器がある。土坑 3 は旧耕



図 10 II 区南壁断面図 (S = 1 / 50)



II区



I区

図11 全体平面図 ( $S = 1/100$ )

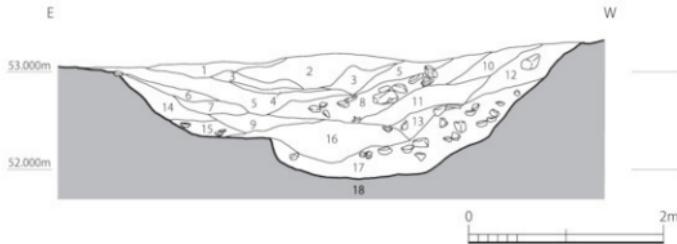
作土に伴う近世以降の遺構である。

ピットは、土師器小片が出土したピット 10 を除いて、遺物は出土していない。

## (2) II 区(図 10~13)

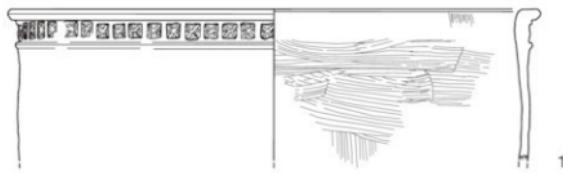
西側の地山面を除き、溝 1 が調査区の大部分を占めるが、東側の肩部は調査区外である。溝 1 の中央やや北側に断ち割った。深さは 1.5m で、断面は逆台形状を呈す(図 12)。西側は傾斜変換点がなく急傾斜のまま底に至るが、東側は調査区外でさらに立ち上がることが想定できるため、2段のテラス状の平坦面が形成されていたことになる。土層観察の結果、一気に埋まったのではなく、数次に分けて埋まっていたことがうかがえる。まず礫混じりの 17 層が西側より流れ込んだ後、16 層上面と東側の 1 段目テラスが一時的な底になる。この時点までに帶水していた様子はない。その後両側から土砂が入り、4 層では砂が堆積していることから一時的に流水があり底であったと推測される。

断ち割りによる狭い範囲での調査であったこともあり、遺物の取り上げは深さ 0.2m 単位でおこなっている。層序単位での取り上げではないため、各層の時期は特定できていない。断ち割り内で出土した瓦質羽釜には、15 世紀前半のもの(図 13-4・7)が一部含まれるが、ほぼ 15 世紀半ばのもの(図 13-5・6・8)で占められている。他に青磁鑄壺弁文碗の口縁部(龍泉窯系 III 類 13 世紀後半から 14 世紀前半、図 13-9)、焼成不良で瘤目をもつ瓦質鉢(図 13-10)、瓦、生駒西麓の胎土を持つ土釜、土師器、須恵器、瓦器、黒色土器、陶器などが出土している。また、溝 1 上面から、16 世紀前半の瓦質(土師質)羽釜(図 13-2・3)・瓦質甕(土師質)が出土している。

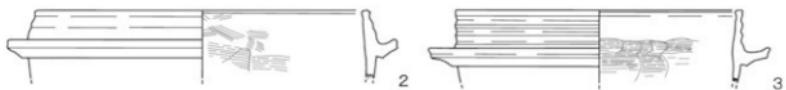


1. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土(細砂含む、縦りなし、3cm 前後大の円礫を多く含む、2 層が少量まじる)
2. 10YR6/8 明黄褐色粘質土に、10YR7/2 にぶい黄褐色粘質土が混じる(地山由来の土か)
3. 10YR4/1 褐灰色粘質土(細砂含む、縦りなし)
4. 10YR6/1 褐灰色粗砂
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土(細砂を少量含む、粘性強)
6. 10YR5/2 黄褐色砂質土(地山由来か)に 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土(細砂含む、縦りなし)がまじる
7. 10YR5/2 灰黄褐色粘質土(1cm 前後の小礫を多く含む、粘性やや強)
8. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土(細砂含む、粘性やや強、円礫を多く含む)
9. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土(細砂含む、粘性やや強)
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土(粗砂を含む、縦りなし)
11. 10YR4/1 褐灰色粘質土(細砂を含む、縦りなし)
12. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土(細砂を含む、縦りなし)
13. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土(細砂含む、粘性やや強)
14. 10YR5/1 褐灰色砂質土(粗砂を多く含む、縦りなし)
15. 10YR5/1 褐灰色砂質土(粗砂を多く含む、縦りなし、円礫を多く含む)
16. N4/ 灰色粘質土(細砂含む、粘性強、耐水の影響かやや青灰色に変色)
17. 2.5Y5/1 黄褐色粘質土(粗砂を含む、円礫を非常に多く含む)
18. 10YR6/8 明黄褐色砂礫【地山】

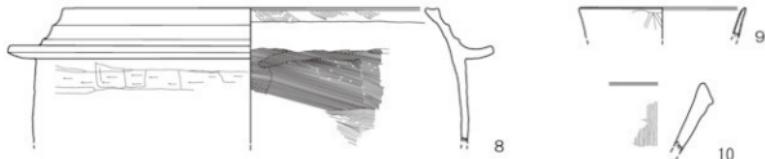
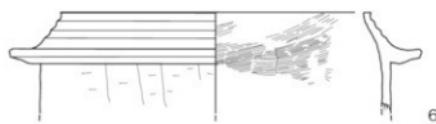
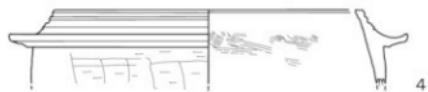
図 12 II 区溝 1 断ち割り南壁断面図 (S = 1/50)



I区 土坑 2



II区 溝 1 上面



II区 溝 1

0 20cm

図 13 出土遺物実測図 (S = 1 / 4)

溝1の西側から土坑1基（土坑1）、ピット4基（ピット1・2・13・14）を検出している。

土坑1は、南北幅2m、深さ0.2mの方形の遺構で、底面は平坦になっている。遺物は土器類や須恵器の小片のみである。ピット2は土坑1に切られ、ピット13・14は土坑1内で検出した。ピット2・13・14で遺物は確認されていない。ピット1は溝1と土坑1の間に位置し、瓦質羽釜や瓦質擂鉢が出土している。

#### 第4節 喜志城伝承地と既往調査の溝遺構について

埋蔵文化財包蔵地としての喜志城跡は、中野集落北西端にある墓地周辺の微高地（図9）に登録されている。その経緯は定かでないが、文献などでは、異なる地を喜志城跡として伝えている。『大阪府全誌』巻四（大阪府1903）には、喜志城址は字川面と新堂村大字中野に跨る所と記されており、喜志尋常小学校創立60周年記念に刊行された『河南郷土史讀本』は、川面の南方田園の中に長山と呼ばれる低く長い丘陵上としている。中野町在住の溝川安雄氏がまとめられた『我が町我が村七百年の歴史』には、長山に楠氏の出城として長見城が存在したとあり、その位置を中野町小字畠ヶ谷の北とする。『大阪府全誌』によると馬場・大手という小字名が残るとあるが、市史編纂の際に作成された文化財課保有の小字図には同地付近に城跡と関連づけられるような小字名は認められない。

これらの伝承地周辺は近年に宅地開発が行われ、1996年度から1998年度にかけて富田林市遺跡調査会によって発掘調査が実施され、その成果はすでに公表されている（富田林市遺跡調査会 1997a、1997b、1998）。1997年度調査では、南北に伸びる幅5.0m、深さ0.5m～0.7mの溝が検出されており、美原太子線のあたりで西方へ大きく広がるか、屈曲すると推測される。この溝は出土している瓦質羽釜から、14世紀後半の遺構として報告されている。1996年度・1998年度は宅地内の道路部分のみの調査であったため、1997年度で検出された溝遺構の南側の調査は行われていない。いずれの調査でも平安から中世前期にかけての遺構が多数検出されており、集落が存在していたと思われる。

今回の調査地東側に面する市道甲田桜井線に伴う調査（2006～2010年度）においては、2007年度および2010年度調査で幅7.0m、深さ1.5mの溝遺構を検出している。今回調査区の北側延長線上にあたり、2007年度調査区の北端中央で東に屈曲する。遺構は調査区の東・南西へと続いている。この溝遺構の出土遺物は実見できていないが、当時の調査担当者は、最終埋没時期について16世紀前半との見解を示している。溝の東側にあたる2006年度および2007年度調査では、14世紀から15世紀の遺構を多数検出している。

#### 第5節 まとめ

今回の調査区の大部分を占める溝1は、断ち割り部分においては15世紀代の遺物を確認した。しかし、溝1の検出面で16世紀前半の遺物が出土していることから、最終埋没時期は16世紀前半と考えられる。なお、小字名や地割図には、遺構の存在をうかがえるような痕跡は確認できない。

2007年度・2010年度調査の溝遺構と今回調査の溝1は、規模と遺物の時期が一致する。溝の規模と断面形状から中世城館の堀であろう。1997年度調査の溝遺構は位置が離れており、また遺物の時期が異なるため、溝1との関係や性格は不明である。喜志城伝承地付近に存在する中世城館の全容解明に向けて、既往調査の整理作業を進めていきたい。

## 参考引用文献

- 大阪府『大阪府全誌』卷四、1903
- 大阪府教育委員会『南河内における中世城館の調査』2008
- 大阪府教育委員会『甲田南遺跡—一般国道（旧）170号線歩道設置工事に伴う発掘調査—』大阪府埋蔵文化財調査報告 2010-8、2011
- 大阪府富田林市立喜志小学校『郷土のすがた 喜志』1973
- 大阪府立南河内郡喜志尋常高等小学校『河南郷土史讀本』1934
- 富田林市遺跡調査会『中野北遺跡』1997a
- 富田林市遺跡調査会『中野北遺跡II』1997b
- 富田林市遺跡調査会『中野北遺跡III』1998
- 富田林市教育委員会『富田林市の埋蔵文化財—埋蔵文化財基本分布図』1978
- 富田林市史編集委員会『富田林市史』第1巻、1985
- 上田秀夫「14から16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』第2号、1982
- 奥井智子「畿内における土製煮炊具の様相」『中近世土器の基礎研究』21、2007
- 小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』1970
- 寺沢薰・森岡秀人『弥生土器の様式と編年 近畿編1』1989
- 鶴柄俊夫「畿内における古代末から中世の土器—模倣系土器生産の展開—」『中近世土器の基礎研究』IV、1988
- 鶴柄俊夫「大阪府南部の瓦質土器生産(2)」『中近世土器の基礎研究』V、1989
- 鶴柄敏夫「各地の瓦質土器」『概説 中世の土器・陶磁器』1995
- 鶴柄俊夫「中世食器の地域性 畿内」『国立歴史民俗博物館研究報告』第71集、1997
- 瀬戸哲也ほか、「沖縄における貿易陶磁研究—14～16世紀—」『沖縄埋文研究』5、2008
- 立石堅志「奈良火鉢」『概説 中世の土器・陶磁器』1995
- 溝川安雄編『我が町我が村七百年の歴史』1991
- 村井毅史「中世城跡と堀の発生と展開—近畿地方の発掘事例を中心に—」『花園史学』10、1990
- 森島康雄「中河内の羽釜」『中近世土器の基礎研究』VI、1990
- 山上雅弘「都市・城郭における堀・溝・土坑」『関西近世考古学研究』22、2014
- 吉岡康暢・門上秀叡『琉球出土陶磁社会史研究』2011
- 全国シンポジウム「中世窯業の諸相—生産技術の展開と編年—」実行委員会『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年』2005

# 報告書抄録

ふりがな	へいせいい27ねんど とんだばやししないいせきぐんはくつちょうさほうこくしょ						
書名	平成27年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名	富田林市文化財調査報告書						
シリーズ番号	57						
編著者名	角南辰馬、林正樹、渡邊晴香						
編集機関	富田林市教育委員会						
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 TEL0721-25-1000(代)						
発行年月日	2016(平成28)年3月31日						

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
こうだみなみいせき	とんだばやし こうださんちょうめ	27214	45	34° 29' 28"	135° 35' 29"	20150219	14.2	範囲確認 調査
甲田南遺跡	富田林市 甲田三丁目			34° 31' 06"	135° 36' 02"			
みやこじんじゅらやまごんぐん	とんだばやし みやちゅうさんちょうめ	27214	8	34° 31' 11"	135° 36' 28"	20150324	—	分布調査
宮神社裏山古墳群	富田林市 宮町三丁目			34° 31' 06"	135° 36' 02"			
あわがいいけいせき	とんだばやし さからいちょうにちょうめ	27214	13	34° 31' 11"	135° 36' 28"	20150306 ～ 20150313	15.6	個人住宅
栗ヶ池遺跡	富田林市 桜井町二丁目			34° 31' 32"	135° 36' 35"			
きし いせき	とんだばやし きしちょうよんらうめ	27214	1	34° 31' 32"	135° 36' 35"	20150601 ～ 20150602	2.75	個人住宅
喜志遺跡	富田林市 喜志町四丁目			34° 30' 55"	135° 36' 43"			
なかのきたいせき	とんだばやし なかのちょうよんらうめ	27214	15	34° 30' 55"	135° 36' 43"	20150902 ～ 20150918	203	個人住宅
中野北遺跡	富田林市 中野町三丁目			34° 30' 55"	135° 36' 43"			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
甲田南遺跡	集落跡	縄文～中世	—	土師器・須恵器	—
宮神社裏山古墳群	古墳	古墳	古墳	—	—
栗ヶ池遺跡	集落跡	弥生～近世	落ち込み・溝	土師器・須恵器	—
喜志遺跡	集落跡	弥生～中世	土坑・ピット	石器・弥生土器	—
中野北遺跡	集落跡	旧石器～中世	溝・土坑	土器・瓦質土器	大型の溝状遺構を検出。周辺の調査状況から、中世城館に関わる遺構である蓋然性が高い。

# 図 版



調査区近景（北東から）



調査区近景（南から）



調査区西壁土層断面（南東から）



調査区南壁土層断面（北西から）



1 面目完掘状況（南西から）



2 面目完掘状況（南西から）



調査区近景（南から）



調査区近景（北から）



II区 溝1土層断面（北東から）



II区 溝1西侧肩部状況（北東から）



II区 溝1土層断面（北西から）



II区 溝1東側肩部状況（北西から）



II区 西壁土層断面（南東から）



I区近景（南東から）



I区 西壁土層断面（北東から）



I区 土坑2土層断面（西から）

平成27年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書

発行年月日 2016年3月31日

編集・発行 富田林市教育委員会

住 所 富田林市常盤町1番1号

印 刷 明朗社